

第3回 東京学芸大学 ヒューマンライブラリー



「本」と出会う、世界と出会う

ヒューマンライブラリーは、在日外国人、障がい者、セクシュアルマイノリティ、教育支援者など、生きている「本」と「読者」との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に関かれた社会の実現を目指すイベントです。「本」との出会いで、世界が開かれるというコンセプトのもと、「^{ヒト}「本」と出会う、世界と出会う」を今年のタイトルとしました。是非お気軽にお読みにいらしてください。

12月16日（日） 12:30～17:30(受付 12時開始)

会場：東京学芸大学 N棟3階教室（受付：N313）

主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018 実行委員会（代表：岡 智之）

後援：小金井市教育委員会・社会福祉協議会、日本ヒューマンライブラリー学会

協賛：東京学芸大学教職員組合、株式会社 LITALICO

問い合わせ先：東京学芸大学留学生センター 岡 智之研究室（N棟2F）

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1、Tel/Fax 042-329-7235

Email：okatom@u-gakugei.ac.jp

第3回 東京学芸大学ヒューマンライブラリー開催スケジュール

日時・場所：2018年12月16日（日）12時受付開始（N棟3F）

対話時間：12:45から30分ごとに、15分休憩、全5回

全体交流会：16:30-17:30

- 「本」のタイトル一覧（予定）（下記の方々と1回30分、対話できます）

作者名	カテゴリー	タイトル
長谷川留理華	ロヒンギャ	迫害にもいじめにも負けないから今ママになれた
アミール	ムスリム留学生	イスラム教・ムスリムとは何か
みなみ みち& アイリーン	日本語教室／外国人支援	小さい日本語教室から見た日本に住む外国人の悲喜こもごも
万里	Xジェンダー	『Xジェンダー』男寄り中性の場合
ゆうと	ゲイ	教室だけじゃない～とあるゲイの先生の話～
畑野とまと	トランスジェンダー	トランスジェンダー活動家です♪
Hillary	発達障害 LGBT ダブルマイノリティ	第一話：[有名国立大学大学院生×学習障害]+[トップアスリート×運動障害]= 第二話：[身体性は男性、性自認は女性のトランスジェンダー]+[レズビアン]=
山口 通	視覚障害	障碍から「障生（しょうせい）」へ
堀口 昂誉	ろう者、手話	日本の超少数民族？～ろう文化～
やすよ&きま	双極性障害、ADHD	持ちつ持たれつ～アクセル&ブレーキの関係
こばやしたくや	児童発達支援	学校/園を外から支える
瀬川 知孝	学校外の教育支援	教育と福祉の真ん中で働く－ユースワークとは何か？

* 詳しいあらすじは、Facebook ページ「東京学芸大学ヒューマンライブラリー」で随時公開します。

- **協賛金寄付のお願い**：本イベントの開催意義にご理解いただき、協賛金寄付にご協力お願いいたします。（個人一口：2000円、団体一口：20000円）

● 第3回 東京学芸大学ヒューマンライブラリー「本」のタイトル、あらすじ一覧

12月16日(日) 12:30~17:30 (12時受付開始)、N棟3F教室

作者名	カテゴリー	タイトル	あらすじ
長谷川留理華	ロヒンギャ	迫害にもいじめにも負けないから今ママになれた	私はミャンマーのアラカン州(ラカイン州)で生まれたロヒンギャ民族で、3歳までアラカン州に暮らしていました。父はアラカン州の公立学校で高校教師を務めていました。1988年、ミャンマー全国で暴動が起き、たくさんのロヒンギャ民族が拘束されたり、殺害されたりしました。その後、私が暮らす村にも、軍が父を探しに来ました。ロヒンギャの教師はほとんど拘束されました。父は国内で身を隠すのは限界があると考え、日本へ行きました。その後の人生について。
アミール	ムスリム留学生	イスラム教・ムスリムとは何か	私はインドネシアから来た大学の研究生で、イスラム教徒である。「イスラム教・ムスリムをどう思うか」と聞かれたら、日本の方の多くは「中東、怖い・厳しい宗教、テロ」などを思い浮かべるだろう。このような偏見を作り出す原因は何かと訊かれると、多くのムスリムがメディアを責める。しかし私は、このような偏見を生み出すのは人間の本能だと思う。人間は未知のものを警戒する傾向にあり、そういったものから距離を置こうとするのだと私は考える。在日ムスリムとして、偏ったイスラム教観とどう向き合うか・解決する方法はあるのかについて、ぜひお話しさせて頂きたい。
みなみみち & アイリーン	日本語教室と外国人支援	小さい日本語教室からみえた日本に住む外国人の悲喜こもごも	軽い気もちで始めた日本語を教えるボランティア。あっという間に20年。その中で、彼らが日本語がわからない、ということ以上に日本の学校や仕事といった生活の中で、知らなかったり、経験したことのないことでつまずいたり自信を無くしたりしていることに気が付きました。教室では日本語の勉強以外にそうした相談に乗ることが多いです。そんな事例を紹介しつつ、「隣の外国人」と私の学んだ事をお話ししたいと思います。(学習者のアイリーンさん(フィリピン人)も来る予定です。)
万里(ばんり)	Xジェンダー	『Xジェンダー』男寄り中性の場合	小さい頃のことから、Xジェンダーと自認した今までの気持ちの変化、社会や外に出て辛かったことから良かったこと、ざっくばらんにお話できたらと思います。性別は2つだけじゃない、恋愛だってきつと自由だということをお伝えたいです。
畑野とまと	トランスジェンダー	トランスジェンダー活動家です♪	LGBTという言葉がメディアでもよく取り上げられるようになりましたが、その一番後ろについているTの事をご存じでしょうか?私が、なぜLGBTではなく、トランスジェンダー活動家として20年以上やっているかをお話します。
ゆうと	ゲイ(男性同性愛者)	教室だけじゃない~とあるゲイの先生の話~	「クラスに1人以上いる」といわれるLGBTの子どもたち。この2,3年で教育現場では「LGBTの子どもたちへの対応が急務である」という認識が広がっています。しかし、「職員室」はどうでしょうか。「教室」で授業を受けていたLGBTの子どもたちの中にも教員になる人がいます。この本は「教室」から「職員室」で過ごすようになった、とあるゲイが同僚や保護者、そして生徒と関わる中で感じた「葛藤」と「生き方」のお話です。

山口通	全盲の元高校教員	障害から「障生(しょうせい)」へ	41歳の時、難病により、中途失明。心の葛藤、世間のスピード、職場でのパワハラ→同僚、先輩、障害者、親友と御相談→リハビリへ向かう。障害の言葉にも、触れます。
堀口昂誉	ろう者、手話	日本の超少数民族？～ろう文化～	聞こえる人たちの生活と『音』は切り離せないものだと思います。電話、目覚まし、テレビ、操作音、サイレンなどたくさんの音声情報が街に存在します。音が生活の中心ではない。そのろう者たちの文化とは？いつの時代にもその文化を受け継ぐものたちが生まれ、世界各国にも存在し続けるその少数民族とは？日本語と同じように言語として存在する手話の世界も紹介します。
やすよ & きま	双極性障害、ADHD	持ちつ持たれつ～アクセル&ブレーキ～の関係	アクセル全開、たまにエンストする"やすよ"は、ADHD×双極性障害。臨機応変にブレーキをかけられる"きま"は、障害を本やインターネットで調べて理解した訳ではない。アクセルもブレーキも大事に使う、会社の先輩と後輩。生い立ちも、思考回路も、得意な事もちがう二人がわかりあえた理由とは。
Hillary	発達障害、LGBT、ダブルマイノリティ	第一話：[有名国立大学大学院生×学習障害]+[トップアスリート×運動障害]= ～～～ 第二話：[身体性は男性、性自認は女性のトランスジェンダー]+[レズビアン]=	第一話のあらすじ：「聞く」「読む」「書く」能力の習得と使用に著しい困難がある（小学校低学年の児童と同じ水準の）私。体育におけるあらゆる運動が著しく苦手だった私。そんな落ちこぼれにもできることと言えば、某有名国立大学大学院の博士課程に合格し、学術論文を読んだり書いたりすることと、スポーツの国内選考会で優勝し、世界大会の日本代表になることぐらいでした。「障害って一体何だろう？」とあらためて問う機会に、いかがでしょうか。 ～～～ 第二話のあらすじ：「身体性が男性で、恋愛・性愛の対象が女性」という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚もできるし子作りもできる私。しかし実生活では、レズビアンのトランスジェンダー（身体性は男性、性自認は女性、恋愛・性愛の対象は女性）といった複数のマイノリティ性を持つ人々の存在が世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生きづらさを気軽に相談できる相手がほとんどおらず、一人で思い悩むこともあります。
こばやし たくや	児童発達支援	学校/園を外から支える	教員志望で学芸大に入学し、今は「児童発達支援」の仕事をしています。発達に凸凹のあるお子さんが自分らしく生きるための支援を、毎日試行錯誤しながら行っています。 どんな仕事なのか、日々どんなことが現場で起こるのか、この仕事に就くにはどうしたらいいのか、などなど、当日お会いした方とのやり取りの中で最適な話題提供ができたかと思っています。学芸大の卒業生でもあるので、その視点でもお話しできることがあればぜひ！
瀬川知孝	学校外の教育支援	教育と福祉の真ん中で働く－ユースワークとは何か？	現在、カタリバというNPOで働いています。学芸大学A類国語科の出身で、学生時代はゼミと軽音サークルでの活動に熱を注いでいました。卒業後は4年間教師として働き、その後カタリバに転職。文京区の中高生向け施設b-lab(ビーラボ)にて、「ユースワーク」に取り組み始めます。おそらくユースワークという言葉には聞き馴染みがないでしょう。安心できる居場所と、やってみたいに挑戦できる機会をつくるこの仕事を軸に、お話しします。